

時間ばかりが過ぎていく日々の中で利用者が独りで家にいるという現実や保護者が職場に利用者を連れて行っているという現実を思い知らされる度に、心が苦しくなりました。

5月下旬には、時間を短縮しての勤務ではありますが、天真庵の場所を借りて弱電作業や工場へ出向いて段ボール作業を行い、間借りなりにも利用者の出勤出来る場を作る事が出来ました。また、6月中旬には今後虹のかけはしの場所が小名浜に移る事について、保護者への説明会を開催しました。利用者からは今後小名浜へ移転する事に対する不安の言葉も聞かれており、まだまだ再開へ向けて解決すべき課題が多々ある状態であります。

ゆっくりとした速度ではありますが、虹のかけはしは少しずつ前へ進んでいます。この大きな試練を利用者・保護者・職員が一体となって乗り越えた暁には、今まで以上に素晴らしい虹が架かることを信じて、日々努力して参りたいと思います。

＜小規模多機能型就労継続支援B型 天真庵＞

3月の大震災においては幸いなことに持ち堪え、新年度より新たなスタートを切った天真庵でしたが、4月11、12日に立て続けに起こった余震では大きなダメージを受け、店舗は酷く損傷し、営業することは困難な状況に陥り、通所を再開したばかりであった利用者には、自宅待機を強いられる形となってしまいました。そんな中でも厨房内は通常通りに使用することが出来た為、作業を弁当の調理・販売に限定し、5月より作業を再開しました。現在も利用者の出勤に関しては安全面の配慮から作業時間を短縮するなど、幾つかの条件付きではありますが、保護者からの了解を得る形で以前のように稼動しています。以前に比べると短い作業時間ではありますが、日中活動としての機能、そして何よりも、顔を合わせてのコミュニケーションによって日々の不安やストレスが軽減されているのではないかと、職員も利用者との関わりを通して感じています。

天真庵の今後については、次年度に向けて移転の方向で検討しております。震災に伴い物件の需要が高まっており、なかなか条件に合う移転先を決められずにいるのが現状ではありますが、いず

れにしても、一刻も早く以前のように利用者が地域に開かれた環境で作業を行なう基盤を取り戻したいと強く願っています。

＜救護施設 やしおみ荘＞

当日は午後から雷や雨がひどく、灰色の薄暗い空が印象的でした。利用者も職員も夕食前で食事の準備をしている時間で、突然起こった大きな地震で3月に起こった大震災を思い出し一時は騒然としましたが、すぐに冷静になり、職員の指示で全員の安否を確認するため、食堂に集まりました。施設の2階の天井板が落ち、天井の暖房器もずれる等の被害がありましたが、利用者・職員共に怪我もなく、全員の無事を確認しました。2階は危険と判断し、利用者は1階の居室で過ごして頂きました。一つ一つの余震が大きい為、職員が声を掛け、利用者同士も励まし合いながら、その夜を過ごしました。

今回の地震で一番の被害は、水道でした。3月の大震災では被害がなかったものの、今回は震源地が施設の近くということもあり、止水してしまいました。食事では支援物資で頂いた缶詰やカップ麺を中心に、何とか1日3食を提供することができました。しかし食器も洗えない状況の為、食器を汚さないよう使い捨ての皿を使用したり、おにぎりをラップに包んで配膳する等工夫しました。止水は食事だけでなく、トイレや入浴、洗濯にも大きく影響し、給水車から水を運び、食器用と排泄用に分け、特に排泄については大きな桶にたくさんの水を入れ、排泄毎にバケツに水を汲んで流しました。市内の給水車だけでは無く、全国各地の給水車が応援に来て下さり、全国救護施設協議会様・救護施設郡山せいわ園様等、各関係機関より支援物資として多くの飲料水を頂きました。また使用したトイレトペーパーを流さないようにゴミ袋を用意するなど、普段何気なく使用している場面でも、水の大切さを痛感しました。やっと水が出たのは約1週間後で、蛇口をひねって水が出た時、利用者と共に感動しました。

通勤路では路面崩壊や土砂崩れが数か所で発生し、通勤では遠い迂回路を通らなければならず、しばらく通行止めの為、現在も通勤に支障が出ています。